令和元年12月5日
相模原市発表資料

「全国学力・学習状況調査」の結果分析について

相模原市教育委員会では、平成３１年度（令和元年度）に実施した「全国学力・学習状況調査」について、その結果及び分析をふまえた今後の取組等をまとめましたので、お知らせします。

分析結果の主な内容等については、次のとおりです。

○別紙１「平成３１年度全国学力・学習状況調査分析結果（簡略版）」
○別紙２「平成３１年度全国学力・学習状況調査分析結果（詳細版）」

連絡先
相模原市教育委員会
教育センター
電話 042-756-0290(直通)
担当者　加藤　政義

相模原市の結果概要

平成31年度　全国学力・学習状況調査

教科に関する調査の結果

平均正答率とは、一人一人の児童生徒の正答率（全設問のうち何%の設問に正答したか）を平均したものです。

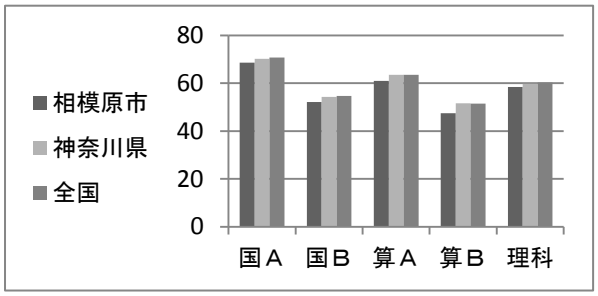
小学校

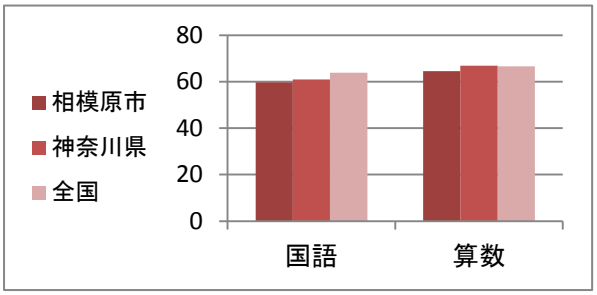
全国と比べてやや下回っています

【平均正答率（%）】

平成30年度	国A	国B	算A	算B	理科
相模原市	69	52	61	48	58
神奈川県	70	54	64	52	60
全国	71	55	64	52	60
全国比	−2	−3	−3	−4	−2

平成31年度	国語	算数
相模原市	60	64
神奈川県	61	67
全国	64	67
全国比	−4	−3





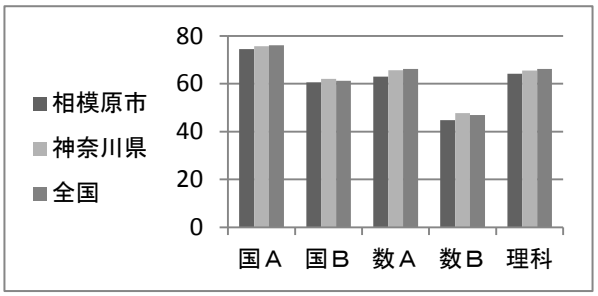
中学校

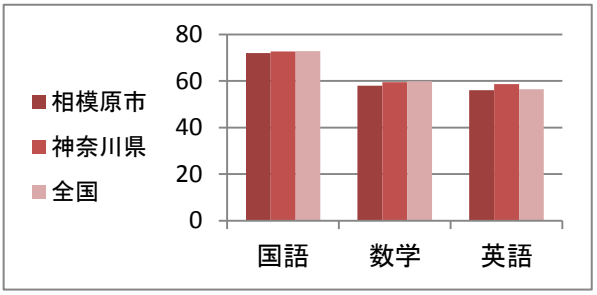
全国と比べてほぼ同程度です

【平均正答率（%）】

平成30年度	国A	国B	数A	数B	理科
相模原市	74	61	63	45	64
神奈川県	76	62	66	48	66
全国	76	61	66	47	66
全国比	−2	0	−3	−2	−2

平成31年度	国語	数学	英語
相模原市	72	58	56
神奈川県	73	59	59
全国	73	60	56
全国比	−1	−2	0





相模原市の結果概要

平成31年度　全国学力・学習状況調査

児童生徒に対する質問紙調査の結果

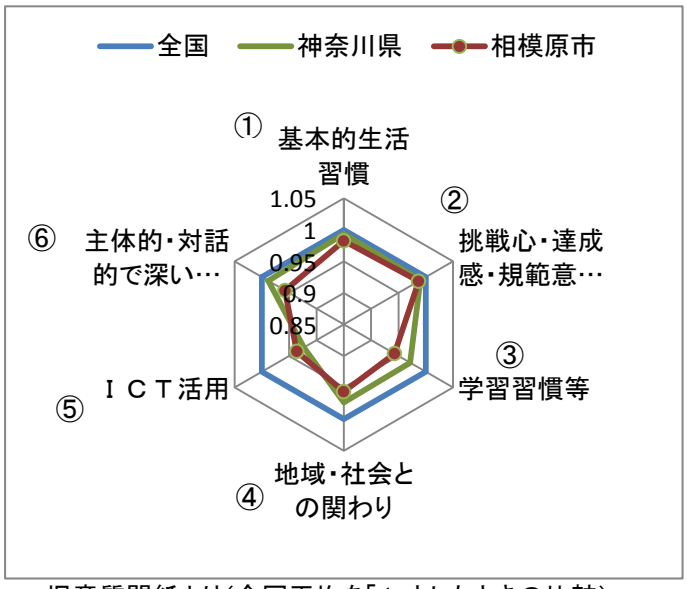
児童生徒質問紙対応表

		小学校	中学校
①	基本的生活習慣	1～4	1～4
②	挑戦・達成・規範意識・自己有用感	5～16	5～16
③	学習習慣	17～22	17～22
④	地域・社会との関わり	23～26	23～26
⑤	ICT活用	27～28	30～31
⑥	主体的・対話的で深い学び	29～36	32～39

※質問の内容は、国立教育政策研究所HP等で確認できます。

※下のグラフは、各質問に対して、肯定・準肯定的回答をした児童生徒について、全国を1とした場合の割合を示したものです。

小学校



児童質問紙より（全国平均を「1」としたときの比較）

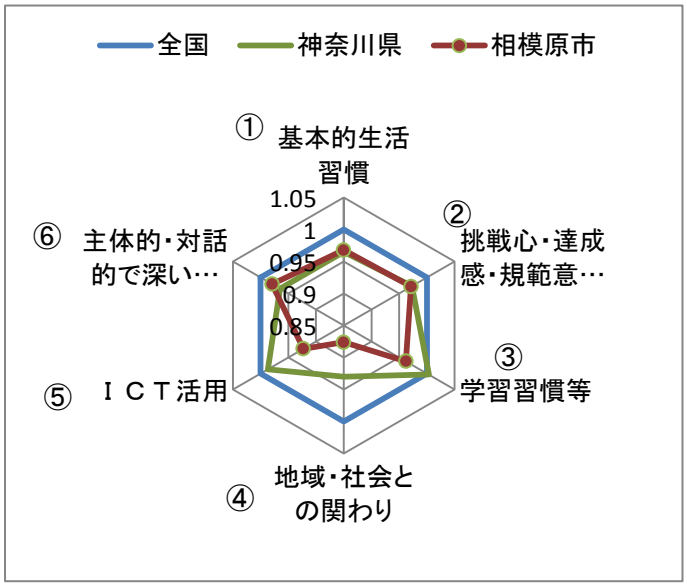
①生活習慣については、定着傾向にあり、規則正しい生活を送っています。

②挑戦心や達成感に対する子どもの自覚は培われています。

③学習習慣に課題が見られます。自ら計画して学習習慣を身につけられるように、家庭・地域と連携を図っていくことが大切です。

④地域社会に関する関心は低い傾向にあります。学校と家庭・地域の相互連携の必要があります。

中学校



生徒質問紙より（全国平均を「1」としたときの比較）

⑤授業でのコンピュータなどICTの活用及び、児童生徒のICTの活用への意欲は低い傾向にあります。ICTの活用場面の設定を工夫し、有用感を持たせていく必要があります。

⑥「主体的・対話的で深い学び」について、子どもの自覚は、十分とはいえない状況です。「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善を今後も進めていく必要があります。

学力の向上に関する取組

学力向上・学力保障検討委員会の開催について

令和元年度より
「学力向上・学力保障検討委員会」を開催します。

（委員）教育委員会各所属および校長会の代表
助言者として有識者を招聘

（検討内容）
- 学力保障推進事業（学習支援員、放課後補習等）の効果検証
- 学力向上、学力保障の取組についての検討

令和4年度以降の中・長期的な取組の方向性を提言

授業改善の推進について

授業改善のための研修の内容を充実させます。

- **授業改善リーダー研修講座**において、令和元年度の各校の授業改善の取組を検証します。
- 新学習指導要領に基づく児童・生徒の資質・能力を育む授業についての研修として、**公開授業研修講座**を行い、「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善を推進します。

小学校国語

平成31年度　全国学力・学習状況調査

全体の正答率

平均正答率とは、一人一人の児童生徒の正答率（全設問のうち何%の設問に正答したか）を平均したものです。

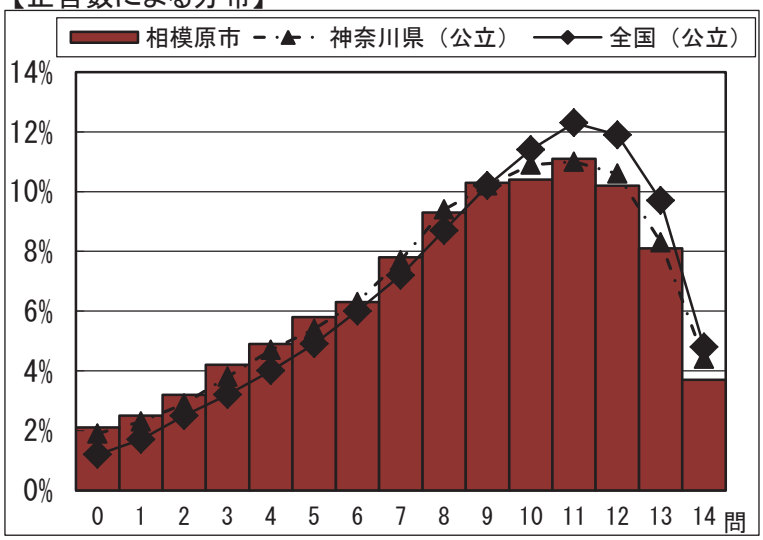
【平均正答率（%）】

	相模原市		神奈川県		全国		全国との比較	
前年度	A	B	A	B	A	B	A	B
	69	52	70	54	71	55	−2	−3
本年度	60		61		64		−4	
前年度比								

平均正答率は全国と比較して、4ポイント下回っています。

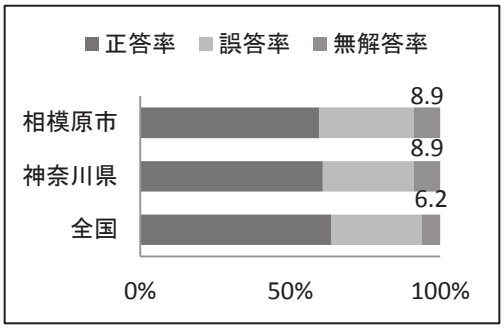
前年度はA・Bに分けて実施しているため、前年度比は算出していません。

【正答数による分布】



【誤答の内訳（%）】

誤答　…　書いたが不正解だった
無解答　…　何も書かなかった



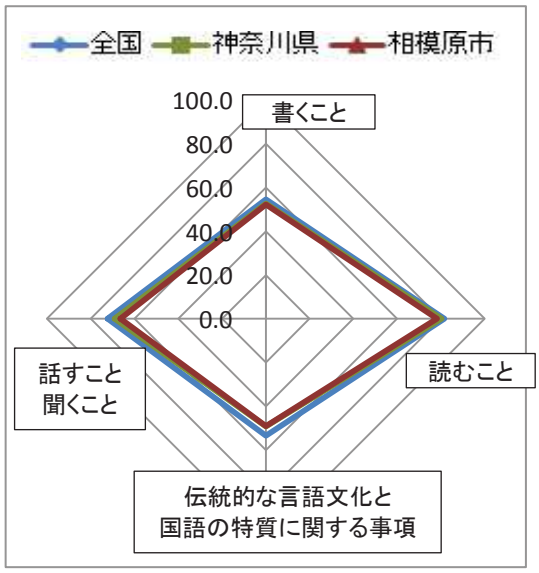
※無解答率（何も書かなかった）は8.9%でした。

※全国と比較すると0～5問の児童が多く、10～14問の児童が少なくなっています。
※正答率50%以下の児童の割合は36.8%でした。（全国は30.7%）

領域別の正答率

【平均正答率（%）】

領域	相模原市	神奈川県	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	66.5	69.1	72.3	−5.8
書くこと	52.2	52.7	54.5	−2.3
読むこと	78.3	80.3	81.7	−3.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	49.0	49.2	53.5	−4.5



※「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、全国より大きく下回っています。

内容について

＊（　）内は、平均正答率の全国との比較

【全国を上回った、主な設問】

〇1四（1）イ　学年別漢字配当表に示されている「限る」という漢字を文の中で正しく使う。
正答率 69.9％（＋0.5）

【全国を下回った、主な設問】

△3三　話し手の意図を捉えながら聞き、心に残ったことを条件に合わせて書く。正答率58.7％（－9.5）
△1四(1)ア 学年別漢字配当表に示されている「対象」という漢字を文の中で正しく使う。正答率33.7％（－8.2）
△1四（2）　接続語「そこで」を使って1文を2文に分けて書き直す。正答率41.2％（－6.6％）

【全国を下回った設問の例】

3　岸さんは、町の広報誌に取り上げられていた畳職人の大谷さんを、学級の友達に紹介するために、大谷さんにインタビューをすることにしました。次は、【広報誌の記事】、【直接聞いてみたいこと】、【インタビューの様子】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

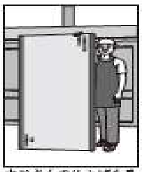
【広報誌の記事】

わが町の達人 ～第25回～
「部屋の床に畳をぴたりとおさめる畳職人」

店主の大谷達さんは、十八歳のころに地元で畳店を営む親方のもとへ弟子入りし、三十歳で自分の店をもった。代々受け継がれてきた畳作りの伝統の技を五十年間守り続けている。

部屋の床にすき間も段差もなくぴたりとおさまる畳を作らせたら、大谷さんの右に出る者がない。通常、部屋に畳をおさめるときにはわずかな段差などが出るため、その場で調整することが多い。しかし、大谷さんの手にかかれば、そのような調整を一切せずにぴたりとおさめることができる。

「私にとって、畳はとても魅力的なものです。だからこそ、五十年間も職人を続けることができたのです」と大谷さんは話す。



大谷さんの仕上げた畳

【直接聞いてみたいこと】

・大谷さんはどのような思いや考えをもって、たたみ職人を五十年間続けてきたのだろうか。

・大谷さんが話しているたたみのみりょくとは何だろうか。

三　岸さんは、インタビューの最後に、大谷さんの仕事への思いや考えに着目して、特に心に残ったことを伝えようとしています。【インタビューの様子】の［イ］に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉
〇【インタビューの様子】の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと。
〇インタビューとしてふさわしい言葉づかいにすること。
〇書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※●の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

特に、●

20字

60字

考　察

☆目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にして、まとめて書くことに課題が見られます。
☆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使う力について、身に付いている部分もありますが、同音異義語については、正答率が低く、漢字の意味を考えながら文の中で使う習慣を身に付ける必要があります。
☆全ての設問について、無解答率が全国に比べて高く、後半の設問ほどその差は大きくなっていることから、粘り強く問題に取り組んだり、文章を読んだりすることに課題が見られます。

改善に向けて

★「書くこと」の力を高めるために
〇字数などの条件に合わせて、目的に合った文書を考えて書くことや、書いた文章を読み直す（推敲する）習慣を身に付ける必要があります。

★「漢字の定着」を図るために
〇漢字のもつ意味を考えながら漢字を使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を身に付けることや、文脈から判断して、文の中で漢字を正しく使えるように継続的に指導することが必要です。

★「読むこと」の力を付けるために
〇内容の大体をつかみながら読めるようにするために、日頃から文章を読む習慣を身に付けることや、音読して正確に読むこと、資料等との関連を意識しながら読むことが大切です。

小学校算数

平成31年度　全国学力・学習状況調査

全体の正答率

平均正答率とは、一人一人の児童生徒の正答率（全設問のうち何%の設問に正答したか）を平均したものです。

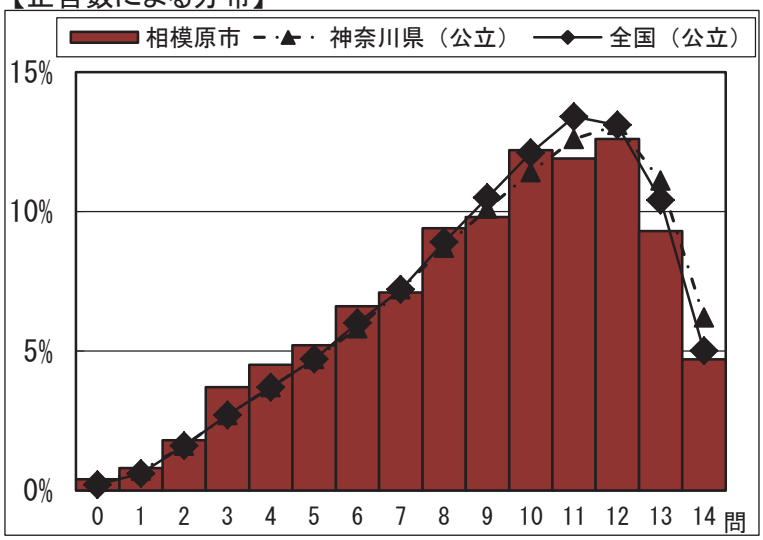
【平均正答率（%）】

	相模原市		神奈川県		全国		全国との比較	
前年度	A	B	A	B	A	B	A	B
	61	48	64	52	64	52	−3	−4
本年度	64		67		67		−3	
前年度比								

平均正答率は全国と比較して、3ポイント下回っています。

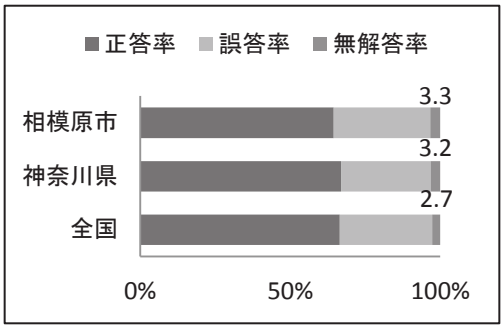
前年度はA・Bに分けて実施しているため、前年度比は算出していません。

【正答数による分布】



【誤答の内訳（%）】

誤答　…　書いたが不正解だった
無解答　…　何も書かなかった



※無解答率（何も書かなかった）は3．3%でした。

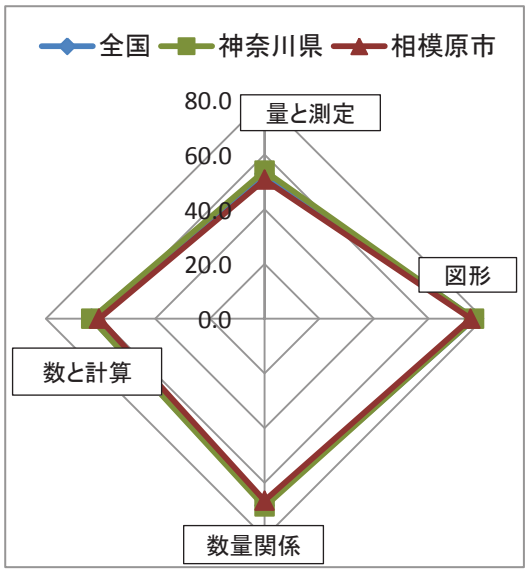
※全国、神奈川県とほぼ同様の分布となっています。
※全国と比較すると、3～6問の児童が多く、11～14問の児童が少なくなっています。

領域別の正答率

【平均正答率（%）】

領域	相模原市	神奈川県	全国	全国との比較
数と計算	60.5	63.3	63.2	−2.7
量と測定	50.8	54.1	52.9	−2.1
図形	75.4	76.6	76.7	−1.3
数量関係	66.5	68.7	68.3	−1.8

※「数と計算」については、全国より大きく下回っています。



内容について

＊（　）内は、全国の平均正答率との比較

【比較的よくできていた設問と正答率】

○2（1）　1980年から2010年までの，10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ。正答率94.2%（－1.0）
○2（2）　2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く。正答率80.2%（＋1.6）
○4（1）　だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ。82.3%（－0.4）

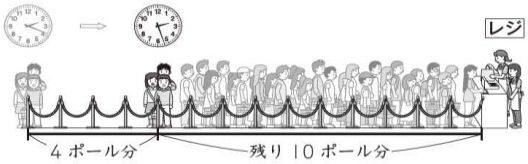
【課題のあった主な設問と正答率】

△2（4）　洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、6＋0.5×2を計算する。正答率53.6%（－6.5）
△3（2）　減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く。正答率27.6%（－3.5）
△4（3）　残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する。正答率58.6%（－4.0）

【課題のあった設問の例】

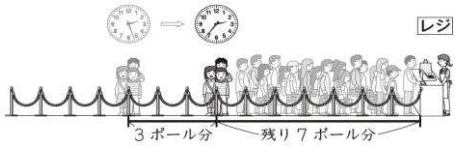
場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、結果から判断ができるかどうかをみる設問

4 (3)　はるとさんたちが並んでから，4 ポール分進むのに 8 分間かかり，残り) ポール分になりました。午後 3 時までは，残り 33 分間です。そこで，33 分間以内にレジに着くことができるかどうかを考えてみました。



はると：4 ポール分進むのに 8 分間かかったことから，残り 10 ポール分も同じ進みぐあいで進むとして考えます。
8 ÷ 4 ＝ 2 で，1 ポール分には 2 分間かかります。
残り 10 ポール分なので，2 × 10 ＝ 20 で，20 分間かかります。
だから，33 分間以内にレジに着くことができます。

ところが，レジにいる店員さんが減ってしまいました。それからは，3 ポール分進むのに 9 分間かかり，残り 7 ポール分になりました。午後 3 時までは，残り 24 分間です。
そこで，はるとさんたちは，24 分間以内にレジに着くことができるかどうかを，もう一度考えてみました。



あかり：3 ポール分進むのに 9 分間かかったことから，残り 7 ポール分も同じ進みぐあいで進むとして考えます。

3 ポール分進むのに 9 分間かかる進みぐあいで進むとすると，残り 7 ポール分進むのにかかる時間は何分間ですか。
求め方を言葉や式を使って書きましょう。また，答えも書きましょう。
さらに，24 分間以内にレジに着くことができるかどうかを，下の **1** と **2** から選んで，その番号を書きましょう。
1　着くことができる。
2　着くことができない。

考　察

☆示された計算の仕方を解釈し、減法や除法において成り立つ性質を記述したり、その性質を用いて計算したりする設問に課題が見られます。
☆「割合」をもとに数量を捉え、事象を考察する設問の正答率が低かったことから、「単位量あたりの大きさ」の見方・考え方を身に付ける必要があります。
☆棒グラフで示された1つの資料から、特徴や傾向を読み取ったり、2つのグラフの数量関係を捉えたりすることはできていますが、複数の資料を関連付けて考えることに課題が見られます。

改善に向けて

★「数と計算」の力を高めるために
○計算の順序についてのきまりを理解し、計算ができるようにするとともに、式と事象を結びつけて式を解釈できるような力を確実に付けていくことが大切です。
★「量と測定」の力を高めるために
○数量関係を割合をもとに考察したり、割合を根拠にして資料の傾向や特徴を説明したりすることができるようにする必要があります。
★「数量関係」の力を高めるために
○目的に応じて、表やグラフから資料の特徴や傾向を読み取り、複数の資料を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄についても判断できるようにすることが大切です。

中学校国語

平成31年度　全国学力・学習状況調査

全体の正答率

平均正答率とは、一人一人の児童生徒の正答率（全設問のうち何%の設問に正答したか）を平均したものです。

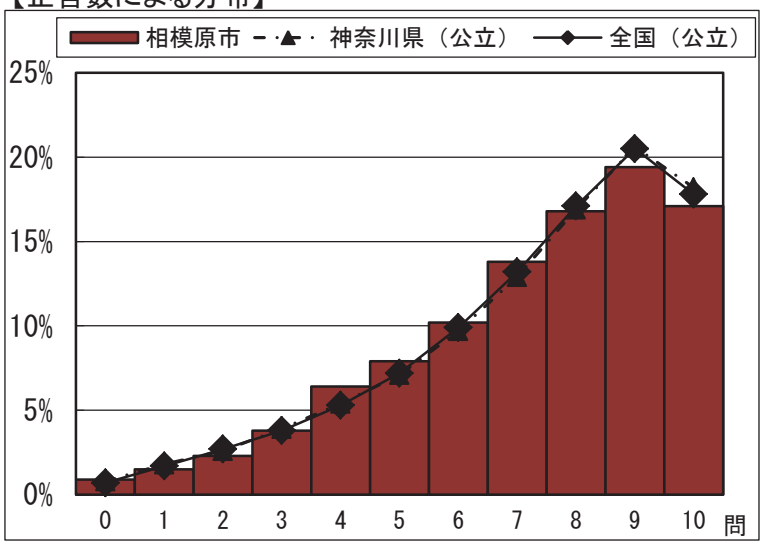
【平均正答率（%）】

	相模原市		神奈川県		全国		全国との比較	
前年度	A	B	A	B	A	B	A	B
	74	61	76	62	76	61	−2	0
本年度	72		73		73		−1	
前年度比								

平均正答率は全国と比較して、1ポイント下回っています。

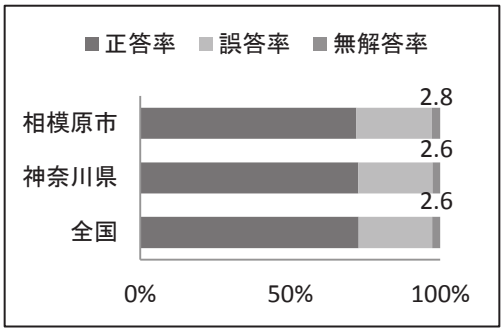
前年度はA・Bに分けて実施しているため、前年度比は算出していません。

【正答数による分布】



【誤答の内訳（%）】

誤答　…　書いたが不正解だった
無解答　…　何も書かなかった



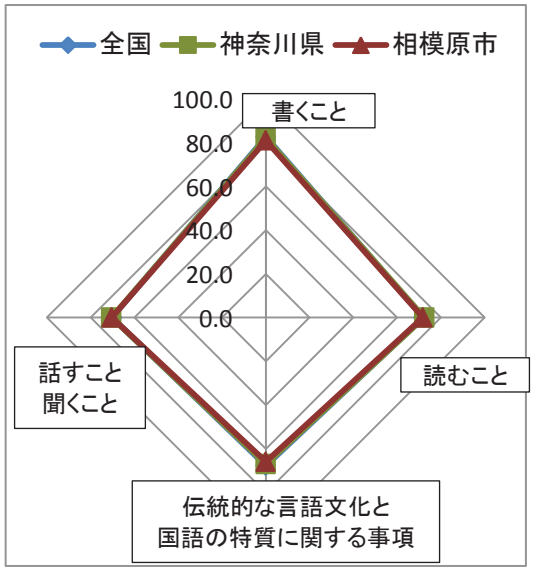
※無解答率（何も書かなかった）は2.8%でした。

※全国と比較すると4～7問の生徒が多く、8～10問の生徒が少なくなっています。
※正答率50%以下の児童の割合は22.8%でした。（全国は21.4%）

領域別の正答率

【平均正答率（%）】

領域	相模原市	神奈川県	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	70.4	70.6	70.2	0.2
書くこと	80.9	82.0	82.6	−1.7
読むこと	71.8	72.5	72.2	−0.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.9	67.0	67.7	−1.8



※「話すこと・聞くこと」について、全国とほぼ同程度となっています。
※「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、全国よりやや下回っています。

内容について

＊（　）内は、平均正答率の全国との比較

【全国を上回った、主な設問】

〇2二　相手に分かりやすく伝わる工夫について適切なものを選ぶ。正答率71.2%（＋1.5）
〇1三　短歌の中から一首選び、条件に合わせて自分の考えを書く。正答率91.4%（＋0.2）

【全国を下回った、主な設問】

△3二　意見文の下書きに、表から読み取ったことを用いて具体例を書き加える。正答率75.7%（－2.1）
△1一　新聞記事のリード文で説明している表現の工夫として適切なものを選ぶ。正答率62.4%（－1.5）
△1四　文字の大きさや配列に気を付けて、封筒に（投稿先の）名前と住所を正しく書く。正答率53.6%（－3.2）

【全国を下回った設問の例】

3

二　青木さんは、**【意見文の下書き】**の下線部「魅力」の具体例に自分の体験を挙げるだけでは足りないと考え、**【広報誌の一部】**にある情報を用いて②のところに文章を書き加えることにしました。あなたなら、どのような文章を書き加えますか。次の**書き出し**に続けて、**【広報誌の一部】**を見ていない人にも分かるように書きなさい。
　なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

書き出し

また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、

考　察

☆相手にわかりやすく伝える表現については、おおむね身に付いています。
☆情報から必要なことを取り出して、伝えたい事柄について根拠を明確にして書くことについて課題が見られます。
☆封筒等書式に応じて、文字の大きさや配列について理解して書くことに課題が見られます。

改善に向けて

★「書くこと」の力を高めるために
〇意見文を書く際、取り上げた情報が自分の伝えたい根拠としてふさわしいかを検討するとともに、読み手に分かりやすく伝わるように、必要に応じて取り上げた情報について自分なりの考えを加えたり、段落の役割を考えて文章を構成したりするように指導することが大切です。
★「生活に生かす書写」の力を高めるために
〇書写の時間では、硬筆、毛筆の力を高めるとともに、社会生活に役立つ書写の能力を育 むことが必要です。そのために、メモやノート、願書やポスター等様々な書式に合わせて、適切な字形や書体で書くなどの活動を取り入れ、書写の能力を他教科等との学習や生活場面で意識的に活用していくことが有効です。

中学校数学

平成31年度　全国学力・学習状況調査

全体の正答率

平均正答率とは、一人一人の児童生徒の正答率（全設問のうち何%の設問に正答したか）を平均したものです。

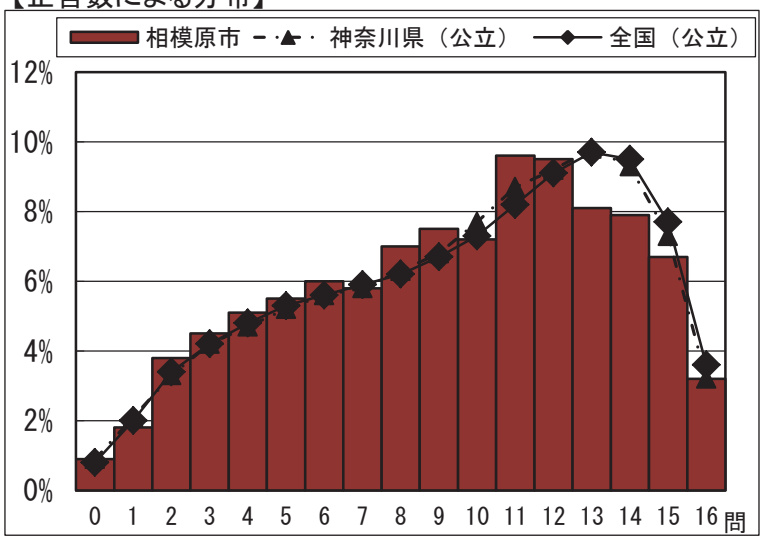
【平均正答率（%）】

	相模原市		神奈川県		全国		全国との比較	
前年度	A	B	A	B	A	B	A	B
	63	45	66	48	66	47	−3	−2
本年度	58		59		60		−2	
前年度比								

平均正答率は全国と比較して、2ポイント下回っています。

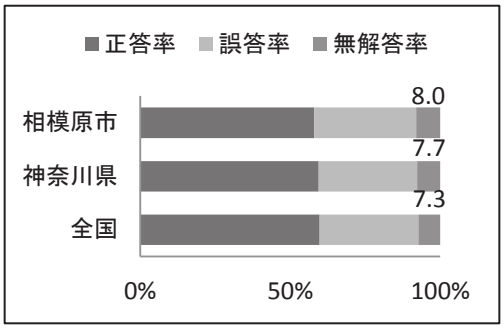
前年度はA・Bに分けて実施しているため、前年度比は算出していません。

【正答数による分布】



【誤答の内訳（%）】

誤答　…　書いたが不正解だった
無解答　…　何も書かなかった



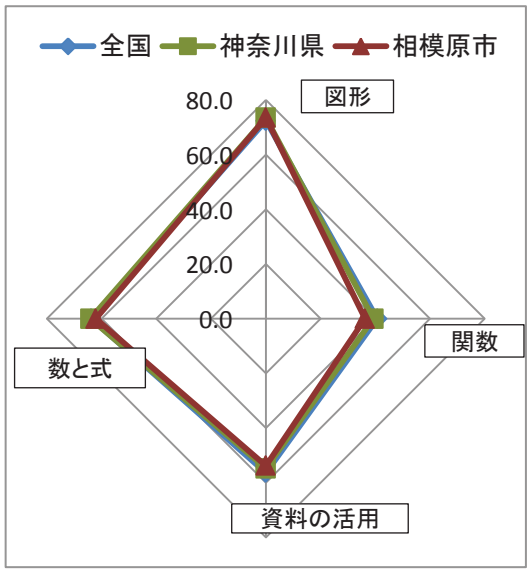
※無解答率（何も書かなかった）は8.0%でした。

※全国と比較すると11～12問の生徒が多く、13～15問の生徒が少なくなっています。

領域別の正答率

【平均正答率（%）】

領域	相模原市	神奈川県	全国	全国との比較
数と式	62.2	64.1	63.8	−1.6
図形	73.5	73.5	72.4	1.1
関数	36.3	39.4	40.8	−4.5
資料の活用	53.7	54.7	56.3	−2.6



※「図形」について、全国より上回っています。
※「関数」においては、全国より大きく下回っています。

内容について

＊（　）内は、全国の平均正答率との比較

【比較的よくできていた設問と正答率】

〇7（1）証明で用いられている三角形の合同条件をかく。正答率 78.1%（＋2.3）
〇9（2）連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する。正答率61.7%（＋2）
〇9（3）連続する4つの奇数の和が$4(2n+4)$で表されたとき、$2n+4$はどんな数であるかを選ぶ。正答率 70.5%（＋0.9）

【課題のあった主な設問と正答率】

△1 a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ。正答率54.9%（－7.3）
△4反比例の表から式を求める。正答率 41.9%（－7）
△6（2）冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて，2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。正答率 30.9%（－3.8）
△8（1）読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める。正答率 52%（－5.9）

【課題のあった設問の例】

数の集合と四則計算の可能性について理解している。

1　a と b が正の整数のとき，下のアからエまでの計算のうち，計算の結果が正の整数にならないことがあるものはどれですか。正しいものをすべて選びなさい。

ア　$a+b$

イ　$a-b$

ウ　$a\times b$

エ　$a\div b$

反比例の表から、x と y の関係を式で表すことができる。

4　下の表は，y が x に反比例する関係を表したものです。y を x の式で表しなさい。

x	…	-3	-2	-1	0	1	2	3	…
y	…	2	3	6		-6	-3	-2	…

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

6（2）

健太さん「本体価格は冷蔵庫Ｃの方が高いので，最初のうちは冷蔵庫Ｂより冷蔵庫Ｃの方が総費用が多いね。」
お姉さん「１年間あたりの電気代は冷蔵庫Ｃの方が安いので，使い続けると冷蔵庫Ｂより冷蔵庫Ｃの方が総費用が少なくなるね。」
健太さん「それなら，２つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Ｂと冷蔵庫Ｃの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア，イのどちらかを選び，それを用いて冷蔵庫Ｂと冷蔵庫Ｃの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。ア，イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア　それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ　それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

考　察

☆「図形」において、平行移動の意味、三角形の合同条件、反例について理解できていることがわかります。
☆「関数」において、一次関数の式やグラフを基にして日常の事象を解決する力に課題が見られます。また、反比例については、x と y の変化の様子を式に表すことなど、基本的な知識を身に付けていく必要があります。
☆「資料の活用」において、代表値（最頻値）の意味についての理解に課題が見られます。また、ヒストグラムから集団の傾向を読み取ることができるようにしていく必要があります。

改善に向けて

★「関数」の力を高めるために
〇小学校段階の「割合」、「比例・反比例」についての学習を生かし、系統性を意識した学習ができるようにすることが大切です。
〇関数の知識を使ってよりよく問題解決ができるよう、「表」、「式」、「グラフ」を相互に関連付けて事象を考えられるようにすることが大切です。
★「データの活用」の力を高めるために
〇代表値（平均値、中央値、最頻値）の意味について理解できるようにするとともに、その値が示す内容について検討する場面を充実させることが大切です。
〇表やグラフの分布からわかることについて、様々な視点で批判的に比較・検討することができるようにすることが大切です。

中学校英語

平成31年度　全国学力・学習状況調査

全体の正答率

平均正答率とは、一人一人の児童生徒の正答率（全設問のうち何%の設問に正答したか）を平均したものです。

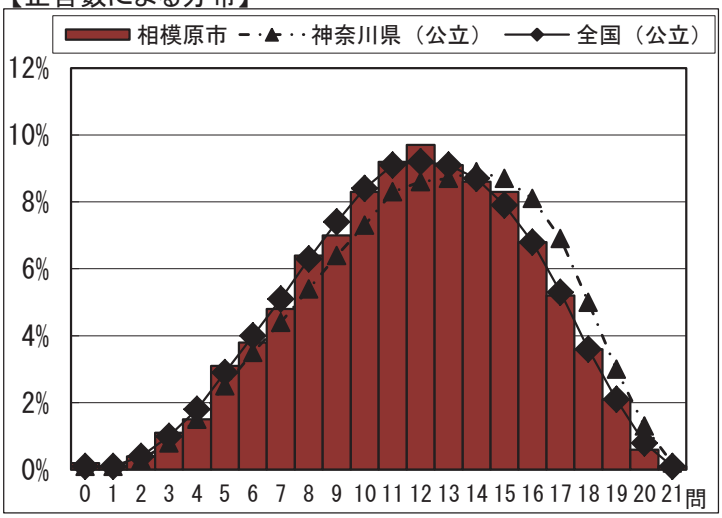
【平均正答率（%）】

	相模原市	神奈川県	全国	全国との比較
前年度				
本年度	56	59	56	0
前年度比				

平均正答率は全国並みです。

英語は本年度より実施しているため、前年度および前年度比は記していません。

【正答数による分布】

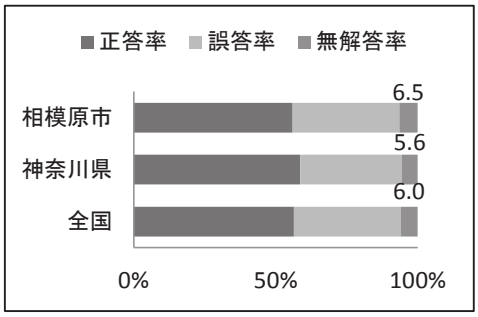


※全国と比較すると、ほぼ同様の分布となっています。

【誤答の内訳（%）】

誤答　…　書いたが不正解だった

無解答　…　何も書かなかった



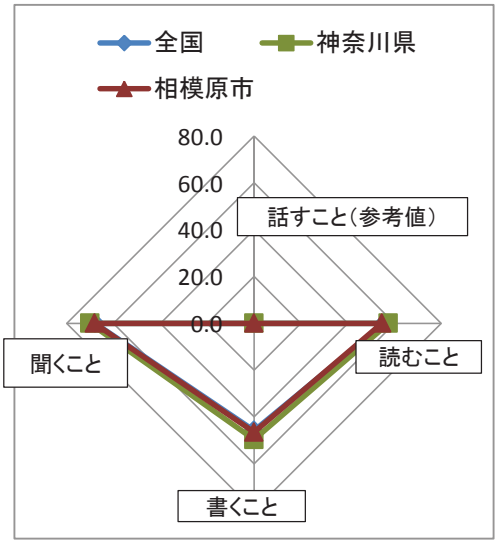
※無解答率（何も書かなかった）は6.5%でした。

領域別の正答率

【平均正答率（%）】

領域	相模原市	神奈川県	全国	全国との比較
聞くこと	68.1	70.1	67.9	0.2
話すこと（参考値）				
読むこと	54.6	57.4	55.6	−1.0
書くこと	46.5	49.7	45.8	0.7

※全ての領域で、全国とほぼ同程度となっています。



内容について

＊（　）内は、平均正答率の全国との比較

【全国を上回った、主な設問】

〇問9（1）② 「書くこと」言語や文化についての知識・理解　文の中で適切に接続詞を用いる。正答率 63.8%（＋5.6）
〇問1（4）〈家での会話〉「聞くこと」言語や文化についての知識・理解　情報を正確に聞き取る。正答率64.7%（＋2.9）
〇問6「読むこと」外国語理解の能力　まとまりのある文を読んで、話のあらすじを理解する。正答率 65.7%（＋2.8）

【全国を下回った、主な設問】

△問9（3）②「書くこと」言語や文化についての知識・理解
与えられた情報に基づいて３人称単数現在時制で正確に書く。
正答率28.9%（－4.0）
△問5（1）（2）「読むこと」言語や文化についての知識・理解　日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取る問題
（1）正答率75.5%（－3.9）
（2）正答率71.3%（－3.1）

【全国を下回った設問の例】

問9（3）②　次の表の①から③は，ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて，彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。
②　住んでいる都市・・・Rome
正答類型　She lives in Rome.（正確に書いている）/ she lives in rome.（大小文字の書き分け等に誤りがあるもの）
誤答類型　She live in Rome. / She live is Rome. / I live in Rome.

問5（1）次の英文を読んで，（　）内に入る最も適切な語（句）を，下の1から4までの中から1つ選びなさい。

People go to (　　) when they want to borrow books. You can read books or study there.

1　hospitals　　2　libraries　　3　book stores　　4　restaurants

（2）次の英文を読んで，その内容を最も適切に表している絵を，下の1から4までの中から1つ選びなさい。
I went to a park yesterday. I saw two beautiful birds in the tree. There were three people around the tree.
Two girls were taking pictures. A man with a bag was just watching the birds.

考　察

☆「聞くこと」では、日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることはおおむねできています。まとまりのある内容を聞き、概要や必要な情報を捉えたり、適切に応じることができるよう、話し手の意図を捉えたりすることには課題があります。
☆「読むこと」については、日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた内容を正確に読み取る問題に課題があります。
☆「書くこと」に関しては、まとまりのある文章を書くときに、正しい文法の使い方や語順、自分の考えを相手に伝えるための表現方法に課題があります。

改善に向けて

★「聞くこと」の力を高めるために
〇日常の授業を通して、目的や場面、状況に合ったまとまりのある英会話文から、話の概要や要点を捉えられるように継続して指導していくことが大切です。
★「読むこと」の力を高めるために
〇教科書や場面設定のある短い文や長い文の読み物資料等を使って、日常的な話題について、情報を正確に読み取ったり、概要や要点など、話し手の最も伝えたい部分を理解したりする力を付けることが大切です。
★「書くこと」の力を高めるために
〇自分の考えや気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くために、メモを活用しながら、初めは文単位から、徐々にまとまりのある文章に取り組むことが必要です。そのために、日頃の授業から文を書く機会を設け、文法や語順の誤りについて、生徒自身が考えるようにしていくことが大切です。

①基本的生活習慣

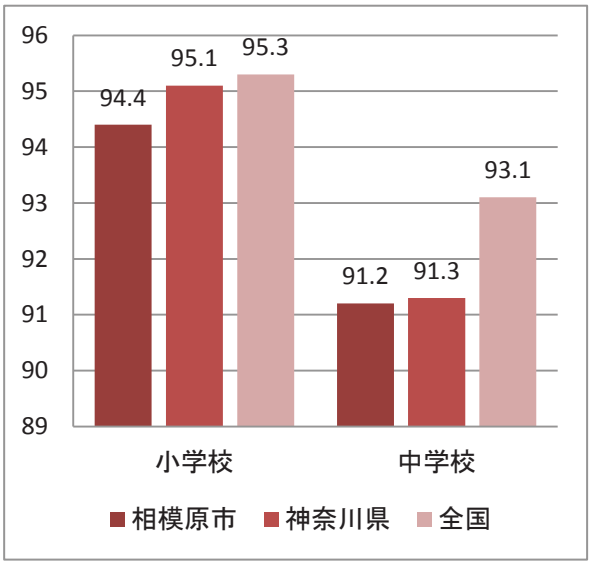
平成31年度　全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙より

今年度の結果

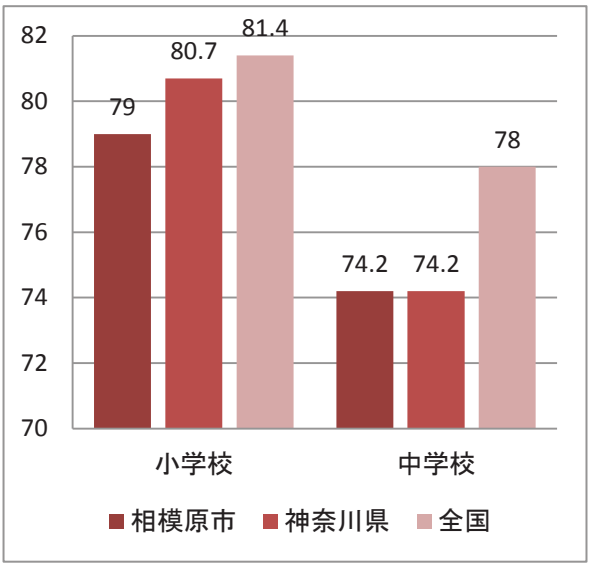
☆毎日、朝食を食べる習慣や起床時刻については、定着傾向にあります。児童生徒が健やかに成長するためには、規則正しい生活習慣が大切です。ご家庭で、よりよい生活習慣を身に付けられるよう、温かく見守りを続けていただくとともに、学校で、自立を促す働きかけに継続して取り組むことが大切です。

☆クロス集計では、毎朝朝食を食べて、家族とよく話す児童生徒は、教科の正答率の平均が高くなっています。よりよい生活習慣は学力向上につながります。今後も学校と家庭が連携し、基本的生活習慣の定着に努めることが重要です。

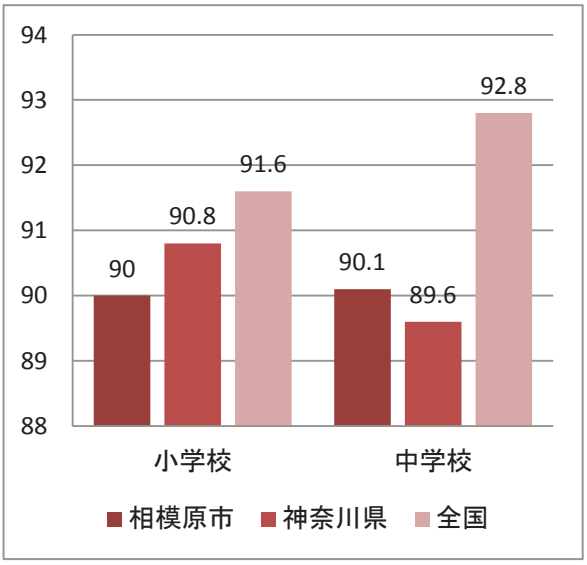
質問1
朝食を毎日食べていますか。



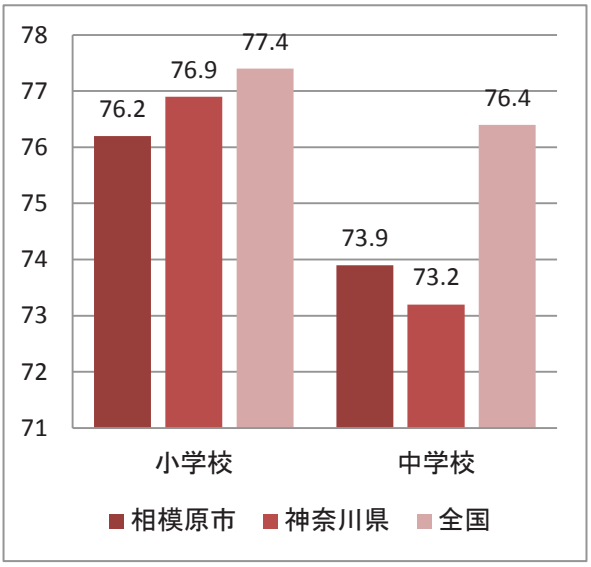
質問2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



質問3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



質問4
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。



②自己有用感、挑戦心、達成感

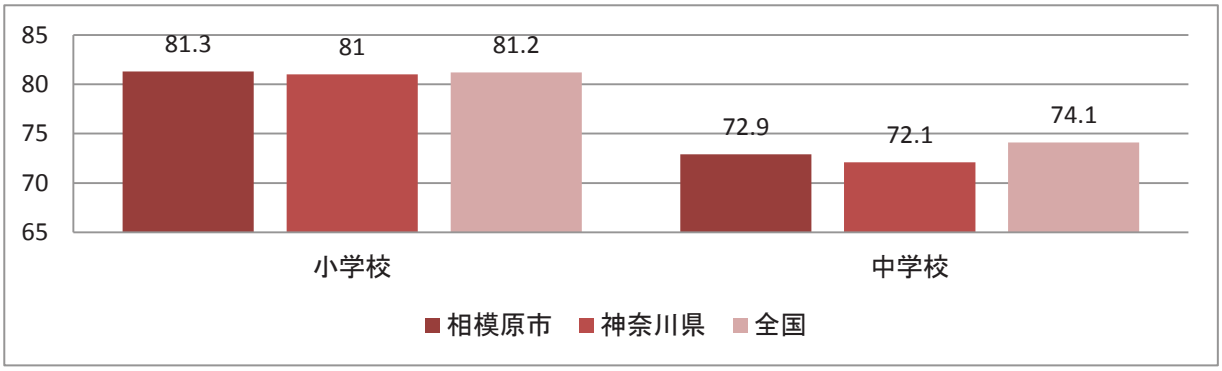
平成31年度　全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙より

今年度の結果

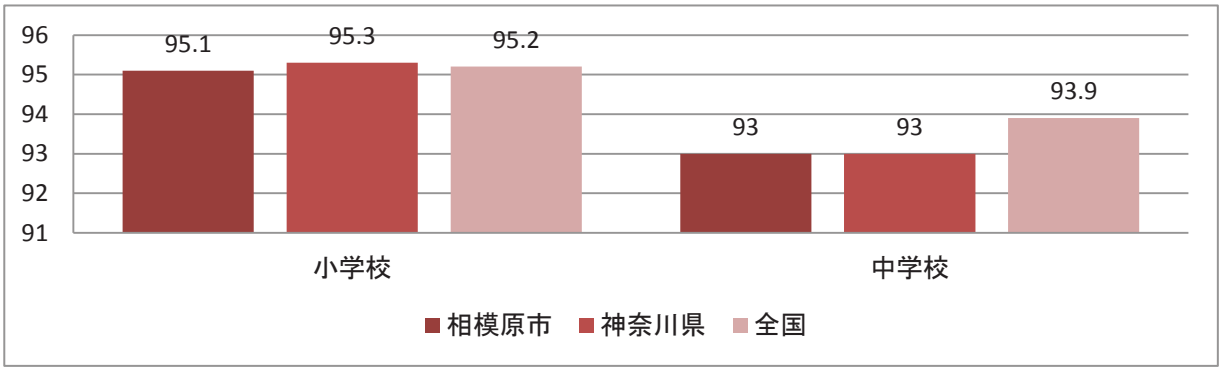
☆自己有用感、挑戦心や達成感に対する児童生徒の状況は、全国とほぼ同じ傾向です。それらの自覚を支えるものは、「よいところを認める」という周囲の働きかけです。学校と地域・家庭が連携し、児童生徒一人一人のよさを引き出す工夫や、よさを積極的に見取り、認め励ます働きかけに、意識的に取り組むことが大切です。

☆クロス集計では、自己有用感が高い生徒ほど、教科の正答率が高くなっています。自己有用感を高めるような働きかけを、意識して行うことが重要です。

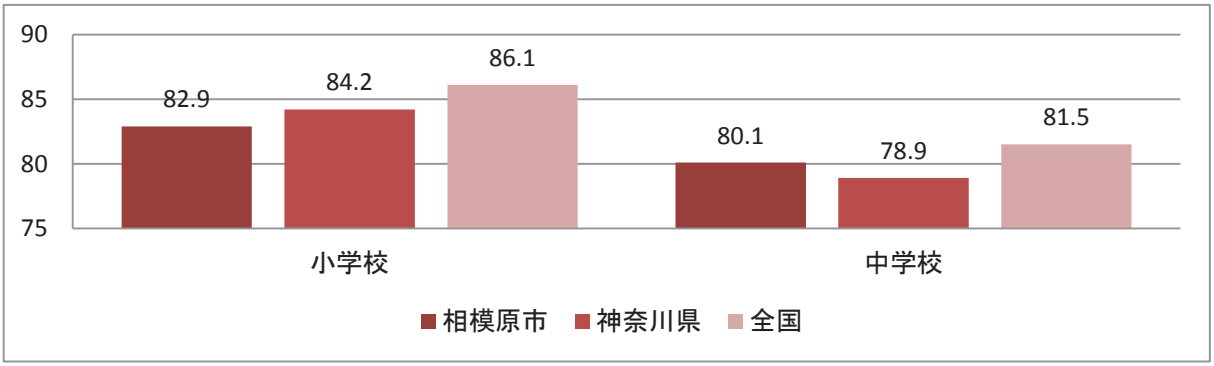
質問 5　自分には、よいところがあると思いますか



質問 9　ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



質問 6　先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



③学習習慣

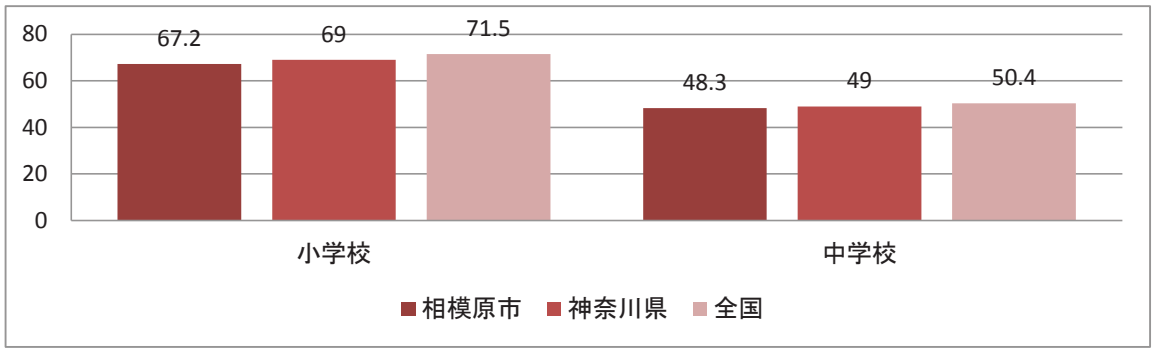
平成31年度　全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙より

今年度の結果

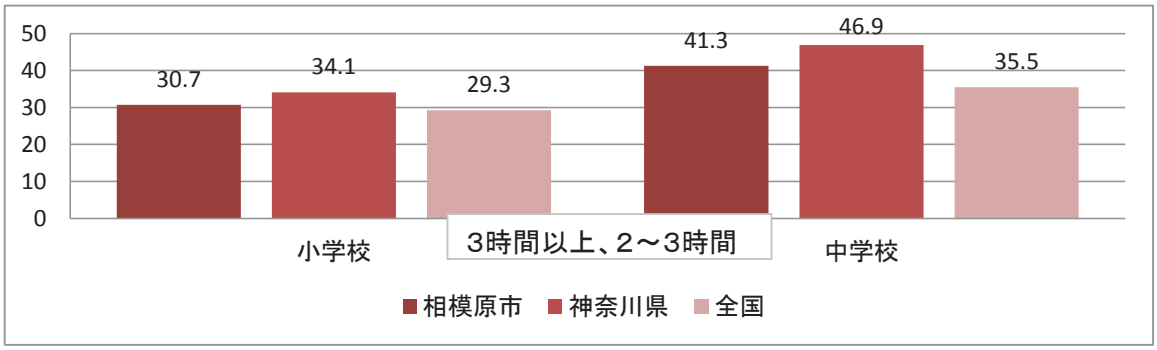
☆「自分で計画を立てて勉強をしている」は、全国と比べると低い傾向ですが、「学校の授業時間以外に勉強している時間」は全国より長い傾向にあります。また、読書の時間は小学校の方が長い傾向があります。

☆クロス集計では、「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童生徒、また「学校の授業時間以外に勉強をしている時間が長い」児童生徒は、教科の正答率の平均が高くなっています。自立的・自発的な学習習慣を身に付けることができるように、学校と家庭・地域の相互連携を図っていくことが大切です。

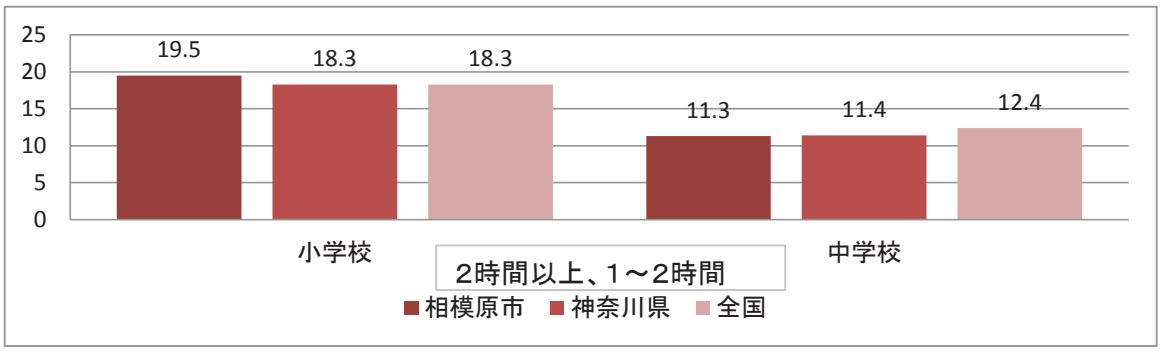
質問17　家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



質問18　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか
（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）



質問19　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか
（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）



④地域・社会との関わり

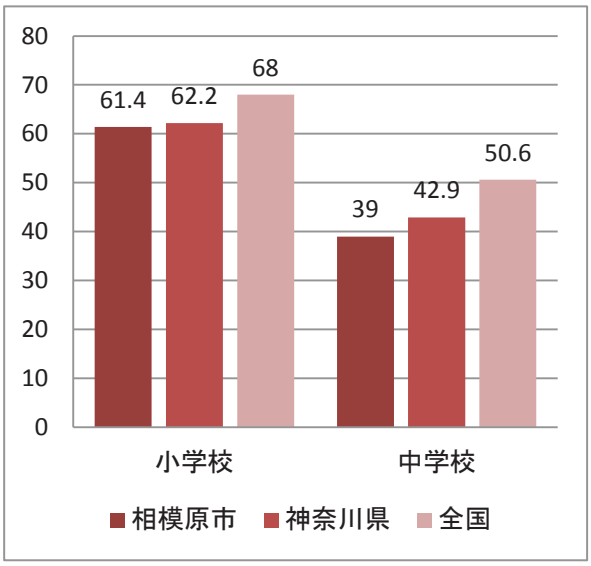
平成31年度　全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙より

今年度の結果

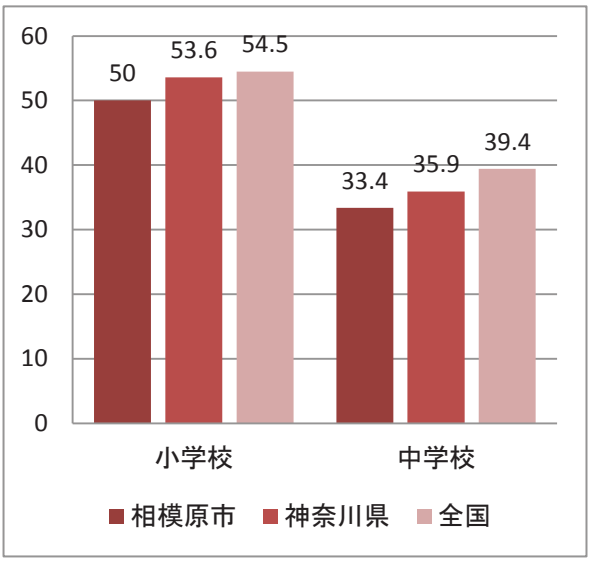
☆地域の行事への参加や地域や社会を良くすることへの意識に関する質問については、全国や神奈川県に比べて低い傾向にあり、市内でも地域による違いが見られました。新学習指導要領で示されている「社会に開かれた教育課程」の実現や、地域と学校のよりよい連携の中で児童生徒を育てていくことが大切です。

☆外国の人に関わる質問についても、地域による違いが見られました。市内全域で、日本と外国との関わりについて興味・関心を持ち、多文化共生社会について考えられるような意識が持てるよう、地域と学校が相互連携を図っていくことが大切です。

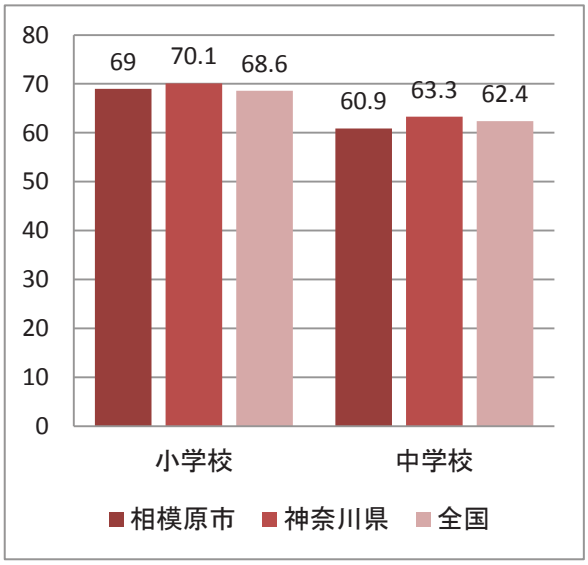
質問23
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



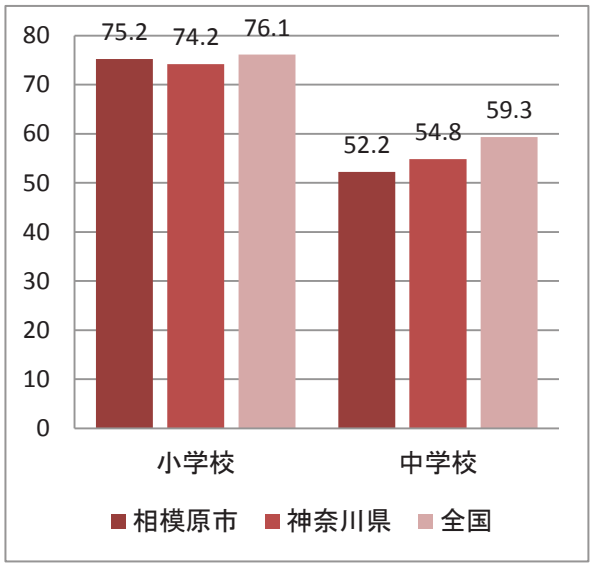
質問24
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。



質問25
外国の人と友達になったり，外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。



質問26
日本やあなたが住んでいる地域のことについて，外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。



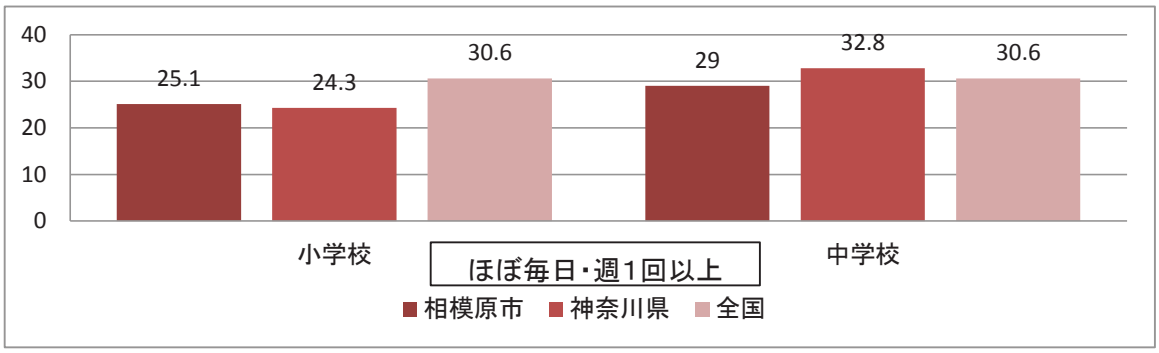
⑤ICTの活用

平成31年度　全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙より

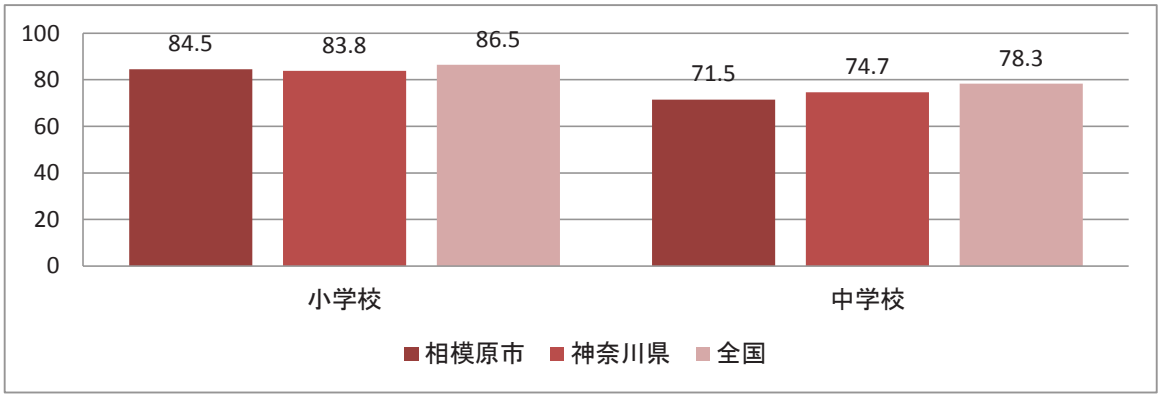
今年度の結果

☆授業でのコンピュータなどICTの活用及び、児童生徒のICTの活用への意欲は低い傾向にあります。児童生徒が情報を活用して新たな価値の創造に挑んでいける力を育むために、各教科等の指導の場面で積極的にICTを活用する必要があります。また、日常生活に活かしていけるような情報活用能力を育む場面を、工夫していく必要があります。

質問（小）27（中）30　5年生（1、2年生）までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか.



質問（小）28（中）31　授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか



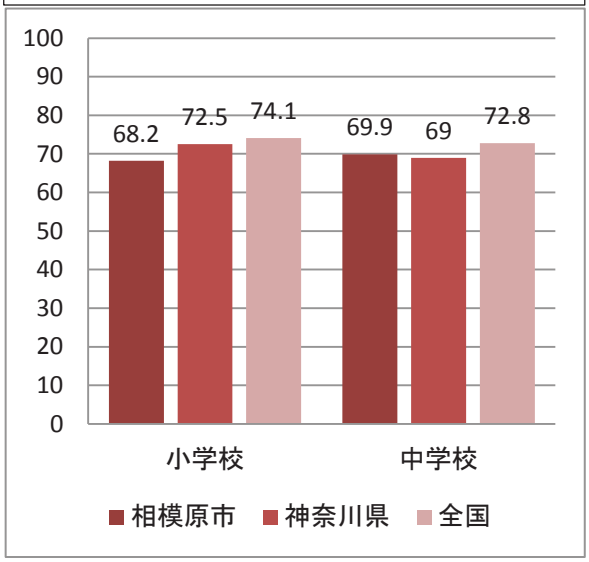
⑥主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

平成31年度　全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙より

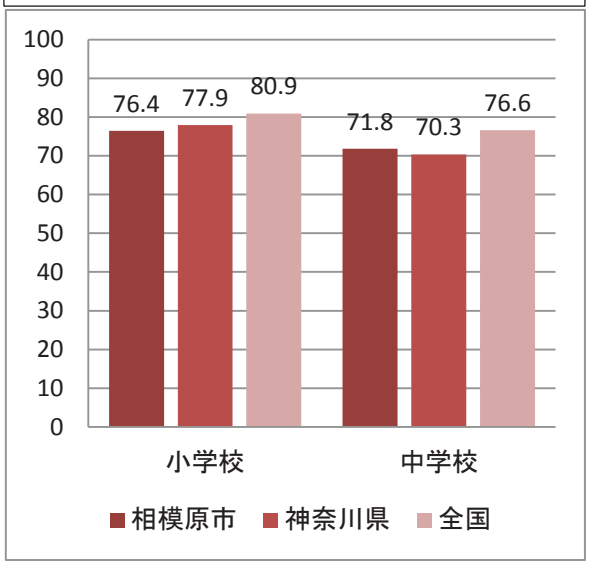
今年度の結果

☆各質問に対する回答状況から、習得した知識・技能を働かせて、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育成するためには「主体的・対話的で深い学び」に基づく授業改善を一層進めていく必要があります。そのためには、今まで以上に見通しと振り返りを行うことによって「主体的な学び」を実現することや、言語活動の質の充実を図ることによって「対話的な学び」を実現し、児童生徒が課題に対してどのように考えていくのかを意識した授業づくりを、工夫していくことが大切です。

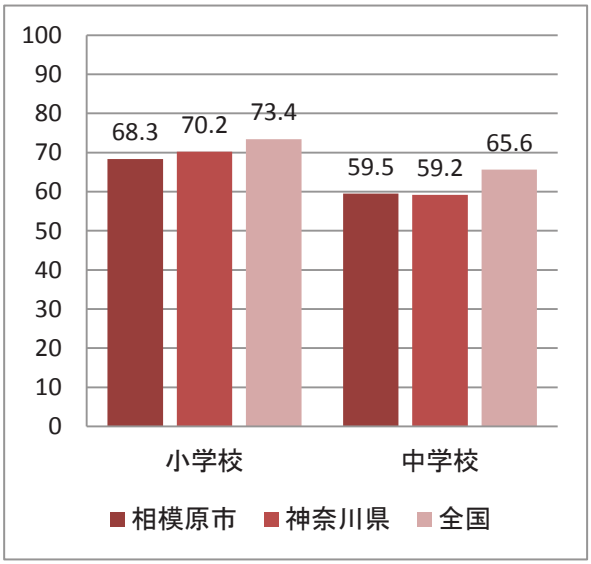
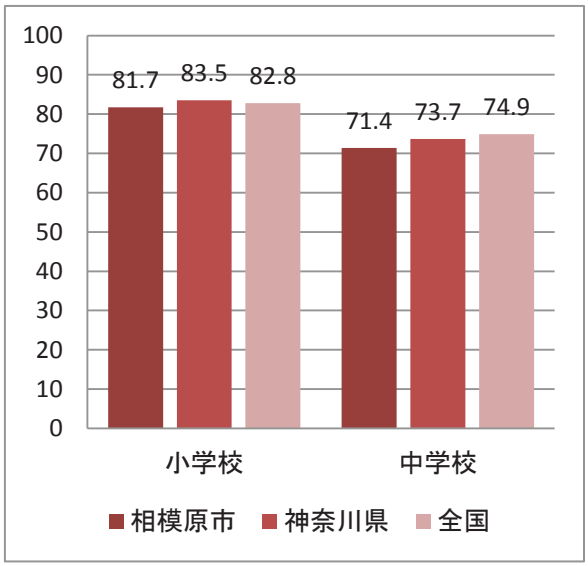
質問（小）29　（中）32
学級の友達との（生徒の）間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



質問（小）34（中）39
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる（た）と思いますか



質問（小）33（中）36
学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか



質問（小）30　（中）33
授業で学んだことを、他の学習に生かしていますか